

「都市計画・まちづくりに関する市民意向調査」

1. 調査の概要

1) 調査の目的

この調査は、将来の潟上市が目指すまちづくりの方向を示す都市計画マスタープランを策定する上で、住民の「まち」に対する要望・意識等の把握と、今後のまちづくりに関する基礎的資料にすることを目的に行いました。

2) 調査概要

調査の概要は以下の通りです。

対 象	18歳以上の住民 3,000人 (住民基本台帳から年代別、男女別、地区別に無作為抽出)
回収期間	平成18年9月17日～10月12日
方 法	郵送等による配布・回収

配布・回収結果

	総数	天王地区	昭和地区	飯田川地区	無回答
配布数	3,000	1,922	663	415	—
構成比	100.0%	64.1%	22.1%	13.8%	—
回収数	1,222	766	259	195	2
回収率	40.7%	39.9%	39.1%	47.0%	—

3) 設問内容

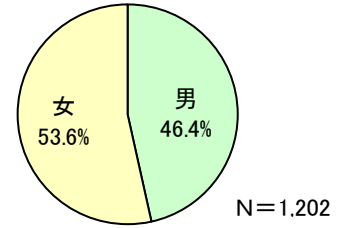
設問内容		回答方法
問1 属性	(1) 性別	単一選択
	(2) 年齢	単一選択
	(3) 居住地	単一選択
	(4) 職業	単一選択
	(5) 家族構成	単一選択
	(6) 居住年数	単一選択
問2 定住意識	(1) 定住意向	単一選択
	(2) 「定住したい」と回答した理由	複数選択
問3	人口減少と開発問題について	単一選択
問4	生活環境について	複数選択
問5	潟上市の将来あるべき姿、都市像、将来都市像について	複数選択
問6	商業のありかたについて	単一選択
問7	今後の道路整備について	複数選択
問8 公共交通	(1) 公共交通(鉄道)のあり方について	単一選択
	(2) 公共交通(バス)のあり方について	単一選択
問9	高齢者の交通問題について	単一選択
問10	土地利用について	単一選択
問11	(1) 潟上市を表す「ことば」「イメージ」について	記入式
	(2) 潟上市のお気に入りの場所とその理由	記入式
問12	環境について	複数選択
問13	防災について	複数選択
問14	まちづくりの市民参加について	単一選択

2. 調査の結果

1) 属性

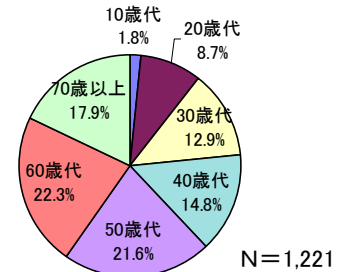
(1)性別

- アンケート結果では男が46%、女が54%で、平成17年国勢調査の男女比率は男47%、女53%であることから、女性の回答率が若干男性を上回っているといえます。



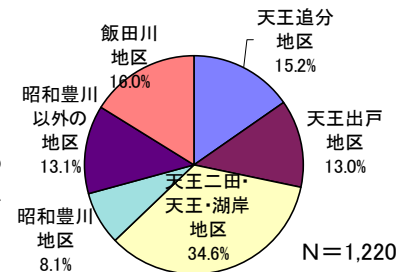
(2)年齢別

- 年齢別では、年齢が高くなるほど回答者の割合も増加する傾向を示しています。



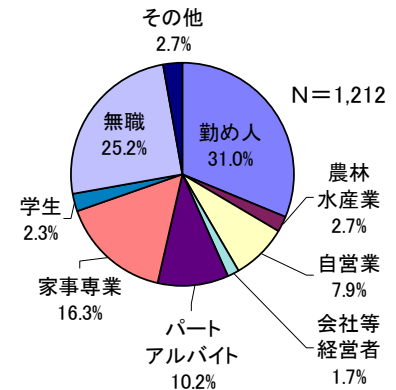
(3)居住地

- 地区別では天王地区の天王・二田・湖岸地域が市全体の35%を占め最も多くなっています。
- 国勢調査の地区別人口割合は天王61%、昭和25%、飯田川14%（H12）で、本調査の回収状況はそれぞれ63%、21%、16%であり、ほぼ地区別の人口構成と符合しているといえます。



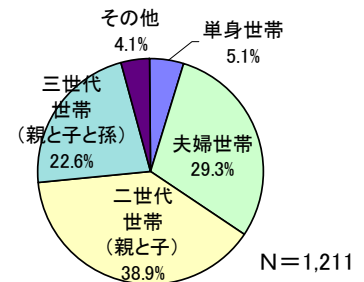
(4)職業

- 勤め人が31%と最も多く、次いで無職25%、家事専業16%の順となっています。



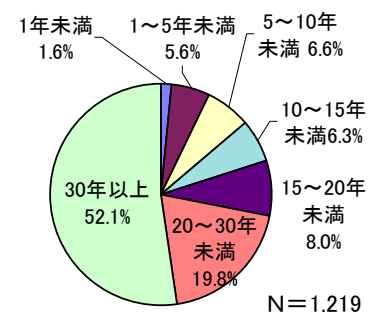
(5)家族構成

- 家族構成は2世代が39%と最も多く、次いで夫婦世帯が29%、3世代23%の順となっています。



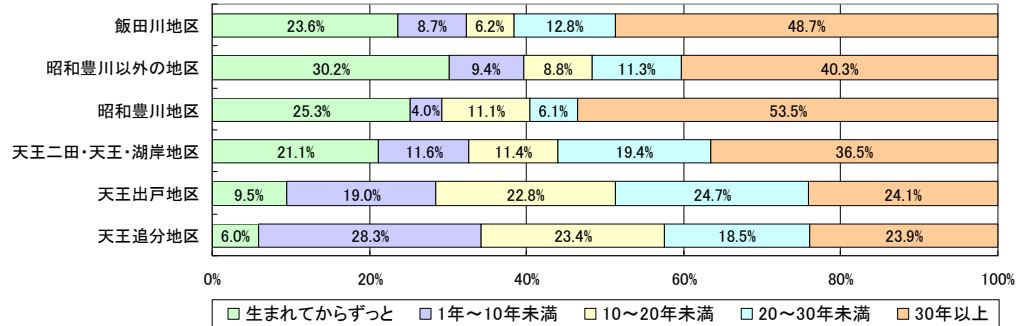
(6)居住年数

- 居住年数は30年以上が52%と約半数を占め、次いで20~30年が20%となっています。



- ・ 居住年数と地区別の関係を見ると、昭和、飯田川地区では「生まれてからずっと」「30年以上」が圧倒的に多くなっています。
天王追分及び天王出戸地区では「1～30年未満」が半数以上を占めており、居住年数が他地区に比べ比較的浅いことから、住宅開発により移り住んできたことがわかります。

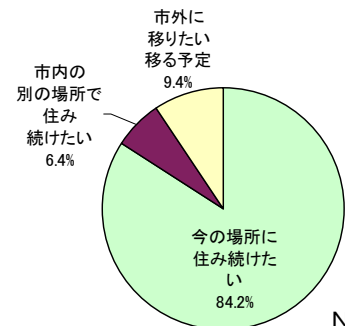
■ 地区別にみた居住年数(無回答を除く)



2) 定住意識

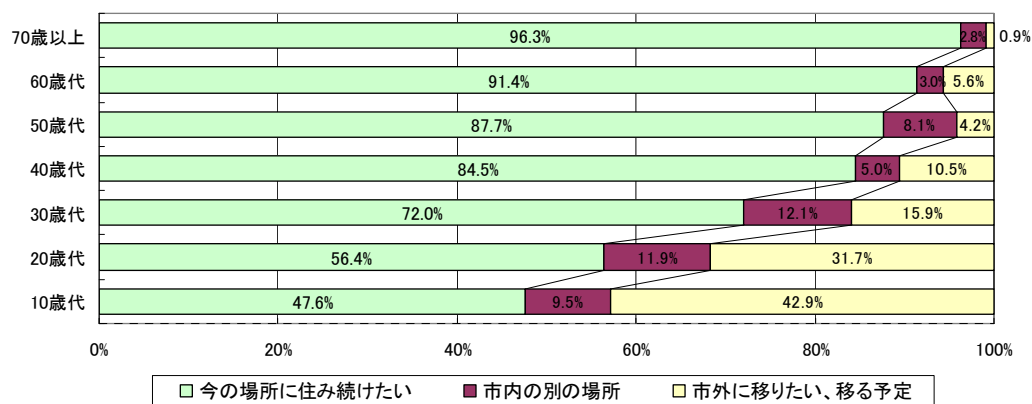
(1) 定住意向について

- ・ 「今の場所に住み続けたい」が84%で、ほとんどが現在の場所に住み続けたいと考えていることがわかります。
- ・ 一方、年齢別にみると、若い世代ほど市外に移りたいとする割合が増加する傾向にあります。



N=1,201

■ 年齢別にみた定住意向(無回答を除く)



(2) 他場所へ移りたいとする理由(複数回答)

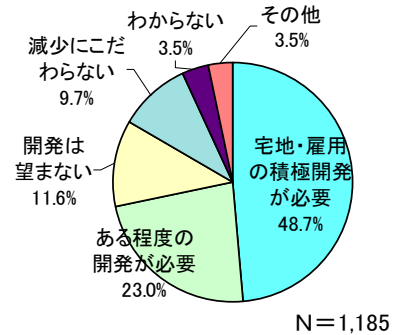
- ・ 「市内の別の場所または市外に移りたい」と回答した理由を尋ねたところ、「買物・娯楽施設の施設が少ない」が37%と最も多く、次いで「通勤・通学が不便」が22%の順でした。

■ 市内の別の場所または市外に移りたい理由(複数回答)



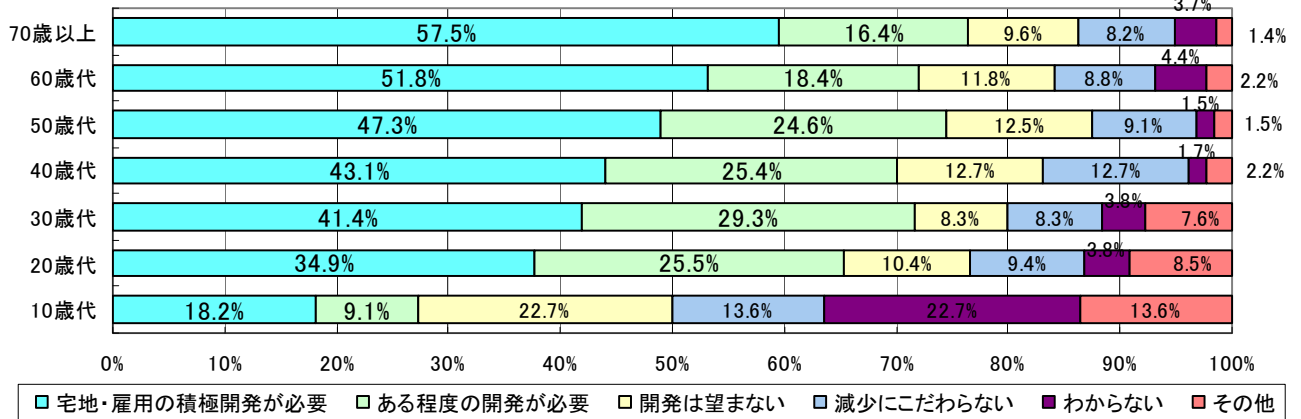
3) 人口減少と開発問題について

- 人口減少に対して、人口を増やすため積極的な働く場や宅地開発が必要との回答が最も多く、全体の約半数を占めました。人口減少を少なくするためある程度の開発が必要（23%）を含めると、7割以上が人口減少は望んでおらず、雇用開発や宅地開発を必要としていることがわかります。



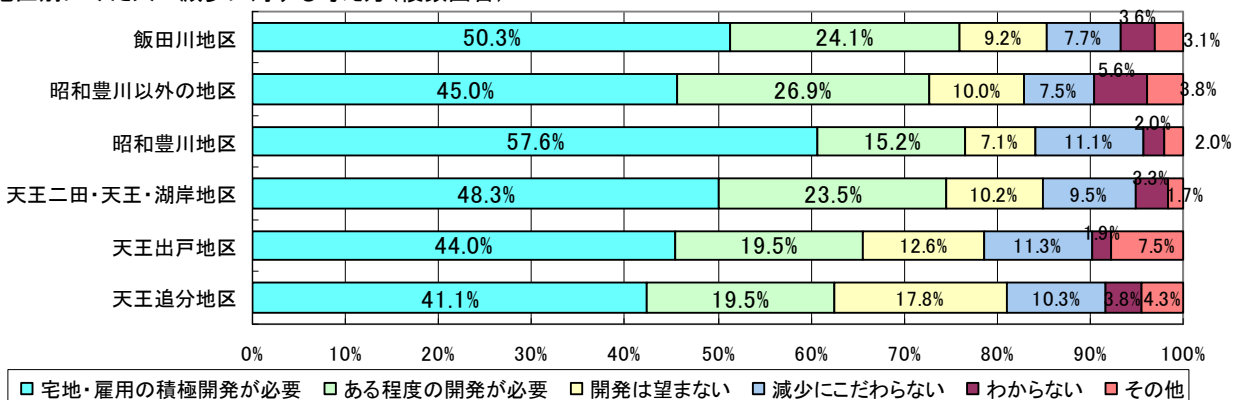
- 年齢別にみると、10代を除く全世代で人口減少に対しての危機感が強く、「雇用の場の確保と宅地開発を積極的に行うことが必要」との認識度合いが強くなっています。特に年齢が高くなるに従い、この回答率が高くなる傾向にあります。
- 一方、「ある程度開発が必要」との回答は上記の「積極的～」に次いで多く、年代が若いほど回答率が高くなる傾向を示しています。

■年齢別にみた人口減少に対する考え方(複数回答)



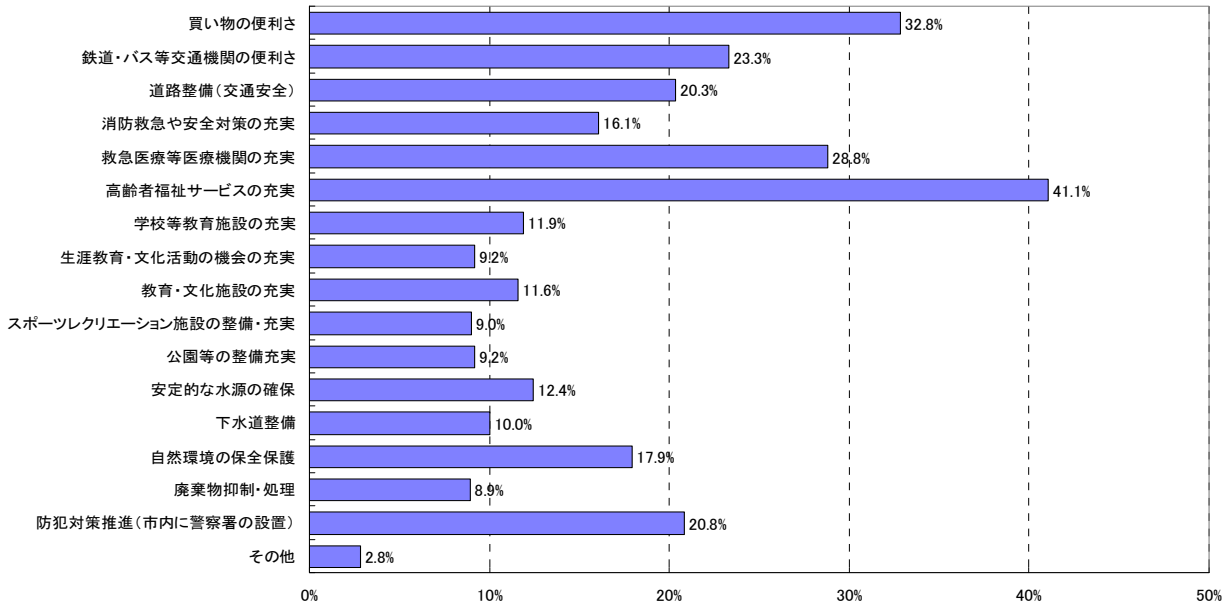
- 地区別にみると、「積極的な開発」は昭和豊川地区が最も多く、次いで飯田川、天王二田・天王地区の順となっています。

■地区別にみた人口減少に対する考え方(複数回答)



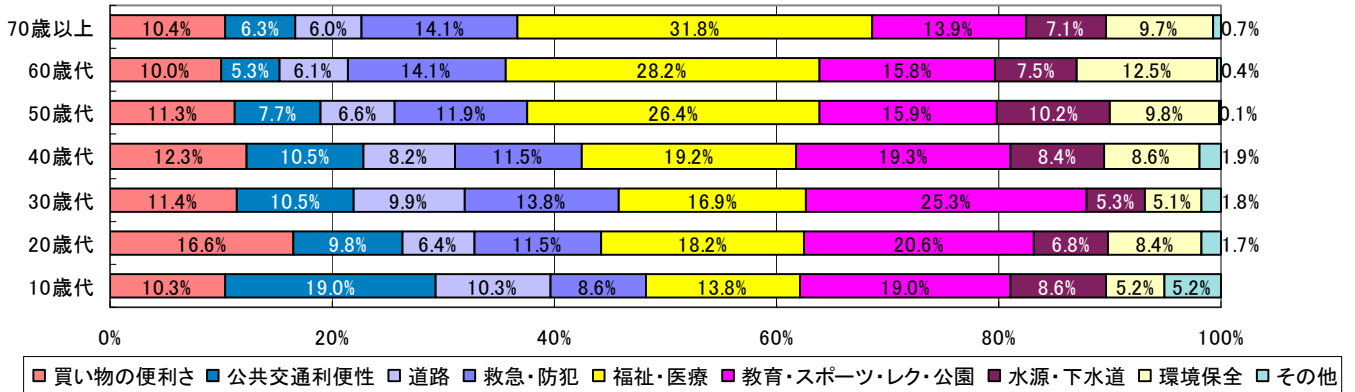
4) 生活環境について(複数回答)

- ・ 潟上市が今後重点的に展開すべき施策としては、全体では「高齢者福祉サービスの充実」が41%で最も多く、次いで「買い物の便利さ」33%、「救急医療施設の充実」29%の順でした。



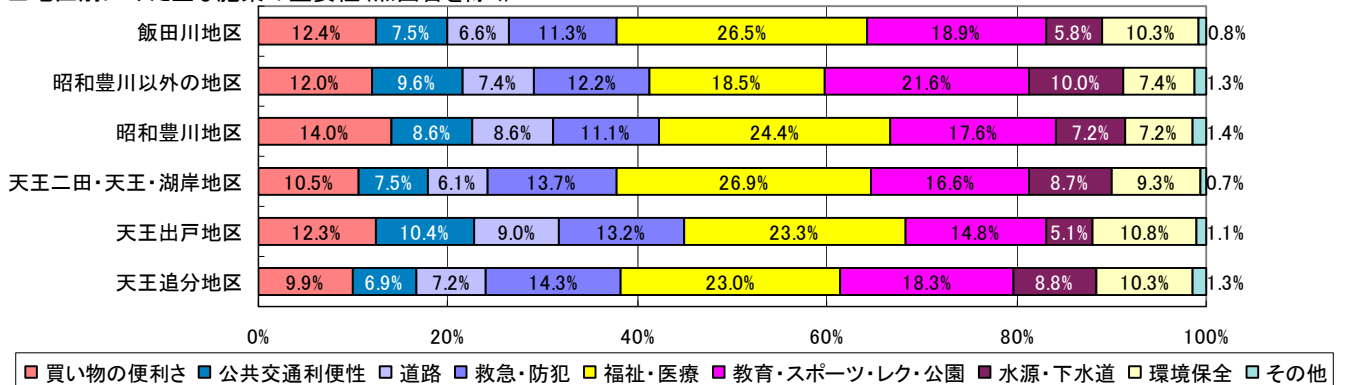
- ・ 年齢別にみると、世代が若くなるにつれ「買い物のしやすさ」「教育・スポーツ・レクリエーション・公園」を重視する傾向が強く、逆に年齢が高くなるほど「福祉・医療」「救急・防犯」を重視する傾向が強くなっています。

■年齢別にみた主な施策の重要性(無回答を除く)



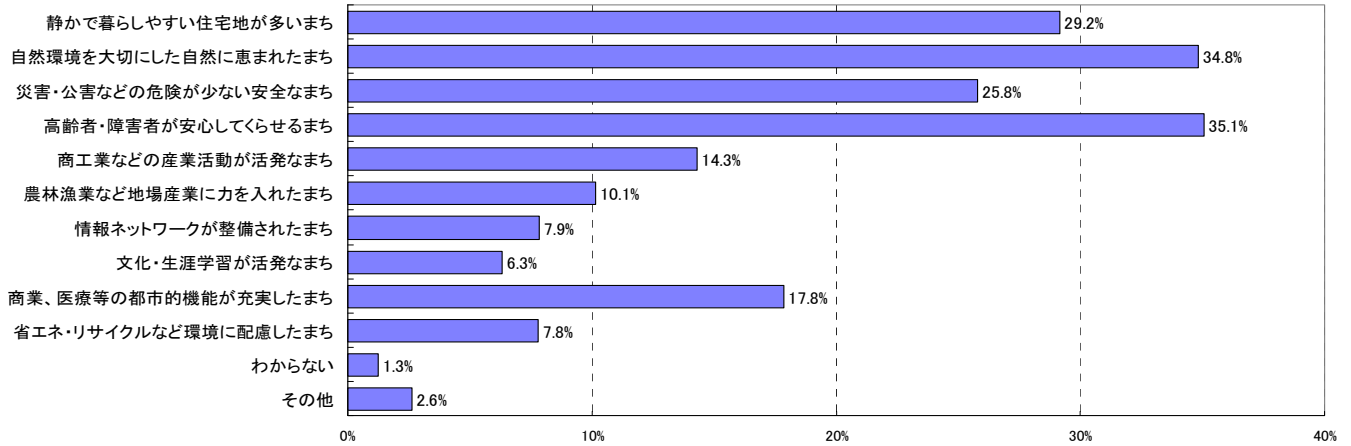
- ・ 地区別にみると、「買い物の便利さ」では昭和豊川地区が最も多く、「福祉・医療」では天王二田・天王・湖岸地区と飯田川地区の要望が高くなっています。「教育・スポーツ・レク・公園」では豊川を除く昭和地区と飯田川地区の回答率が高くなりました。

■地区別にみた主な施策の重要性(無回答を除く)



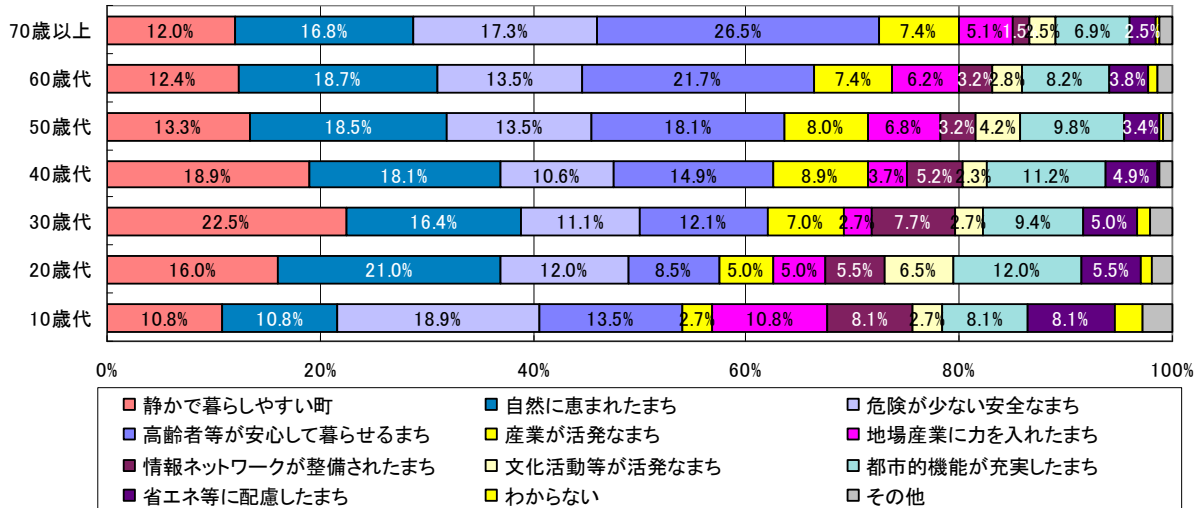
5) 潟上市の将来あるべき姿、都市像、将来都市像について(複数回答)

- 最も回答が多かったのは「自然環境を大切にしたい自然に恵まれたまち」「高齢者、障害者が安心して暮らせるまち」でいずれも 35%でした。次いで「静かで暮らしやすい住宅地が多いまち」29%、「災害・公園などの危険が少ない安全なまち」26%の順でした。



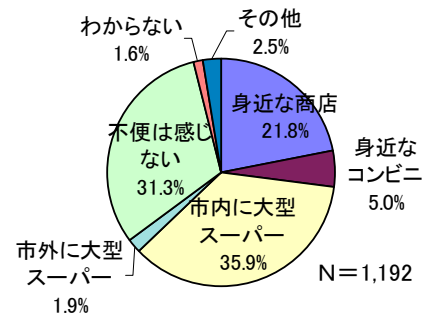
- 年齢別にみると、20代では「自然に恵まれた」、30～40代は「静かで暮らしやすい」が高く、50代以降は「自然に恵まれた」も多くなっていますが、年齢が増すに従って「高齢者が安心して暮らせる」と「危険が少ない」が高くなる傾向にあります。
- 若い世代は静かさや暮らしやすさ、自然を重視しているのに対して、年齢が増すにつれ、安全・安心なまちづくりを望む傾向が強くなり、世代によって理想の都市像が異なることがわかります。

■年齢別にみた潟上市のあるべき姿(無回答を除く)



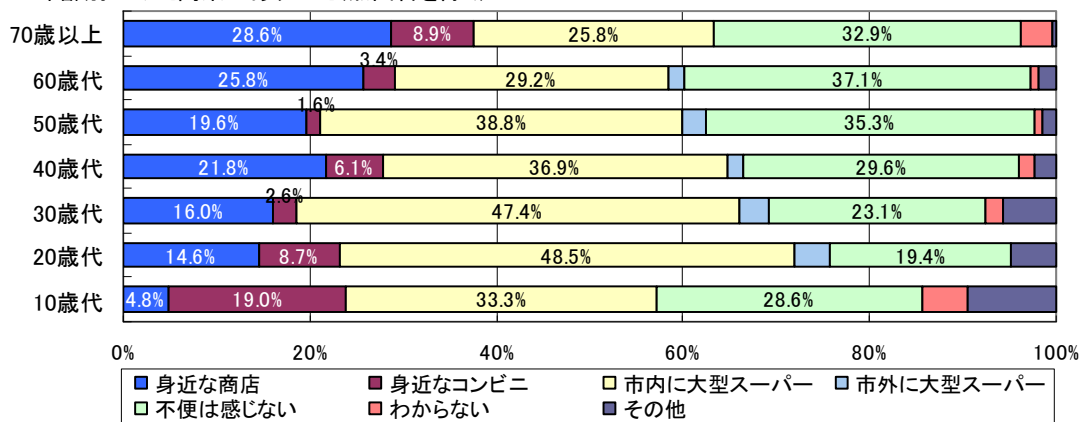
6) 潟上市の商業のあり方について

- 全体では「市内に大型スーパー」を望む意見が36%と最も高い一方で、「不便は感じない」とする意見も31%に上っています。
- 「身近な商店」「身近なコンビニ」はそれぞれ22%、5%で、3割弱の住民が身近な買い物に不便を感じているともいえます。



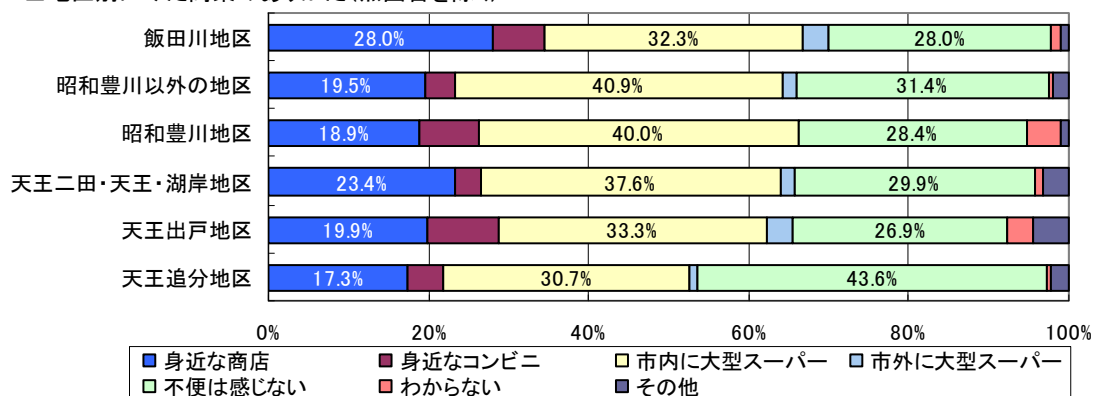
- 年齢別にみると、「身近な商店」を望む意見は高齢になるほど高い一方で、「不便は感じない」とする意見も10代を除き高齢になるほど高い傾向を示しているのが特徴的です。
- 「市内に大型スーパー」を望む意見は若い世代ほど高く、高齢になるほど低くなる傾向を示しており、若い世代ほど買い物に不便を感じているといえます。

■年齢別にみた商業のありかた(無回答を除く)



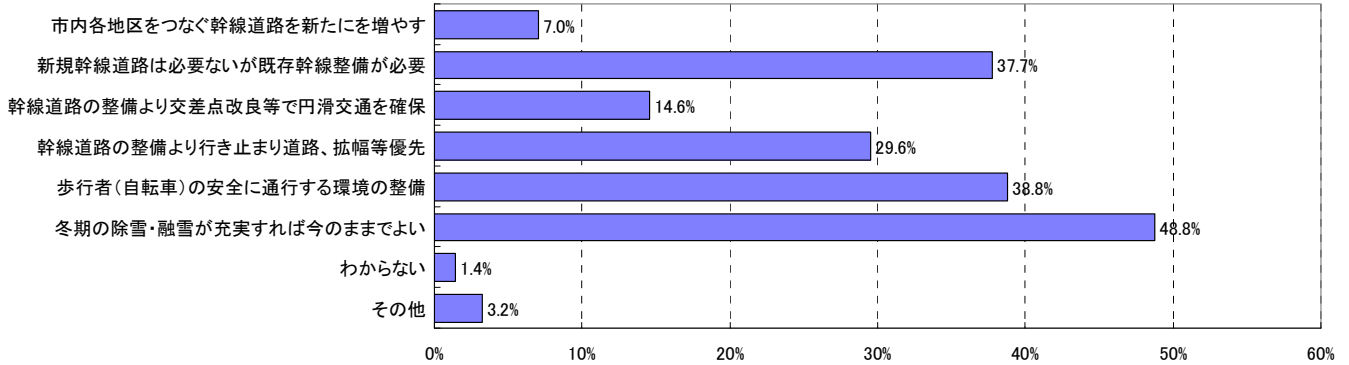
- 地区別にみると、「不便は感じない」とする意見は、地区内にスーパーがある天王追分地区が最も高くなっています。
- 「身近な商店」を望む率が最も高いのは飯田川地区で、昭和地区では他地区に比べ「大型スーパー」を望む割合が高くなっています。

■地区別にみた商業のありかた(無回答を除く)



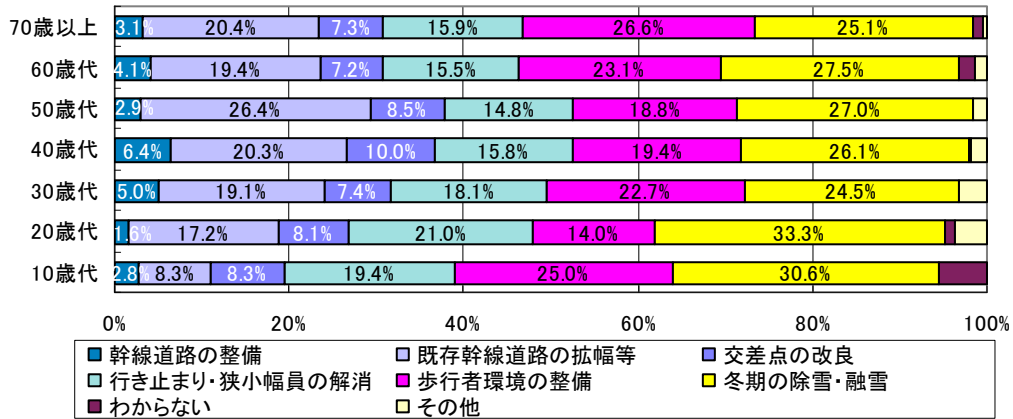
7) 潟上市が行う今後の道路整備について(複数回答)

- ・ 全体では平成 18 年の豪雪の影響から「冬期の除雪・融雪の充実」が 49%と半数を占めました。
- ・ 次いで「歩行者環境の整備」が 39%、「既存幹線道路の整備」が 37%の順で、「新たな幹線道路整備」は 7%と低い回答でした。
- ・ 住民は潟上市内の幹線道路網は既に整備済みとの認識が高く、むしろ既存の幹線道路や行き止まり道路等の改善を優先しているものと思われます。



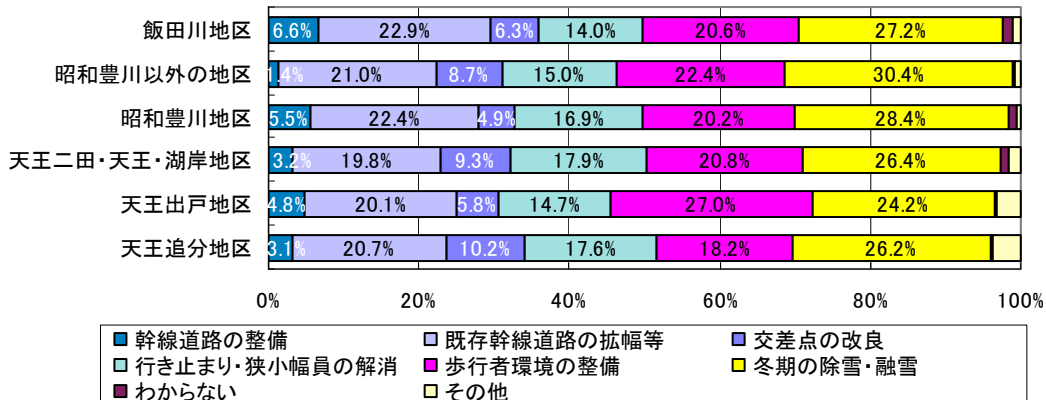
- ・ 年齢別にみると、「既存道路の拡幅等」の 50 歳代の回答率が最も高くなりました。
- ・ 「歩行者環境整備」は車に頼れないためか 10 代と 70 代の回答率が高くなりました。
- ・ 「冬期の除雪・融雪」は若年世代ほど回答率が高い傾向を示しています。

■年齢別にみた道路整備のありかた(無回答を除く)



- ・ 地区別にみると、天王出戸地区で「歩行者環境整備」の要望が他地区に比べ高くなりました。

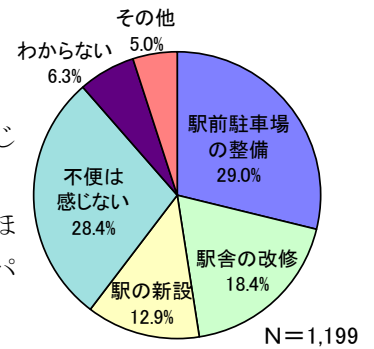
■地区別にみた道路整備のありかた(無回答を除く)



8) 公共交通のあり方について

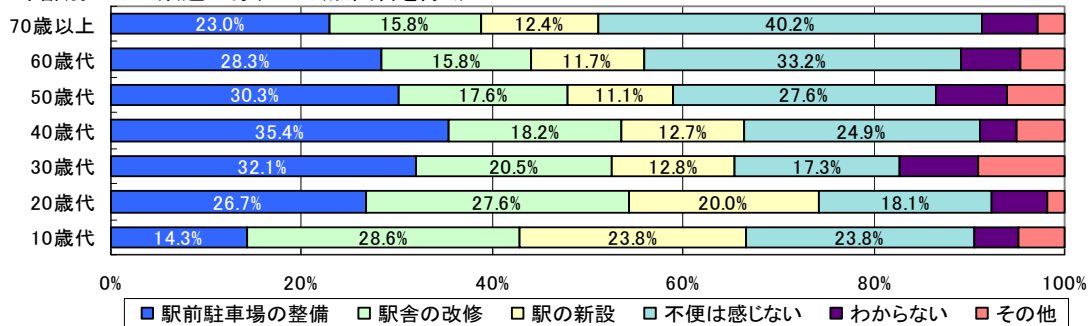
(1) 鉄道のあり方

- 全体で最も回答が多かったのは「駅前駐車場の整備」29%、「不便は感じない」28%で相反する意見がほぼ同数でした。
- 次いで「駅舎の改修」19%、「駅の新設」13%の順でしたが、通勤者のほとんどが自動車に依存しながらも、駅前に車を置いて鉄道を利用するパーキングアンドライドの需要が高まりつつあることがわかります。



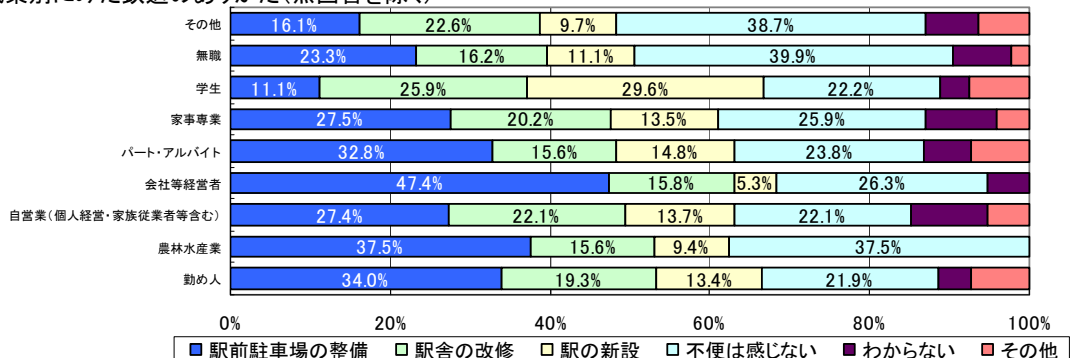
- 年齢別にみると、働いている世代ほど「駅前駐車場の整備」の要望が高く、年齢が増すほど低くなる傾向を示しています。
- 「駅舎の改修」「駅の新設」は若年世代ほど要望が高くなりますが、逆に「不便は感じない」は年齢が上がるほど回答率が増加する傾向を示しています。

■年齢別にみた鉄道のありかた(無回答を除く)



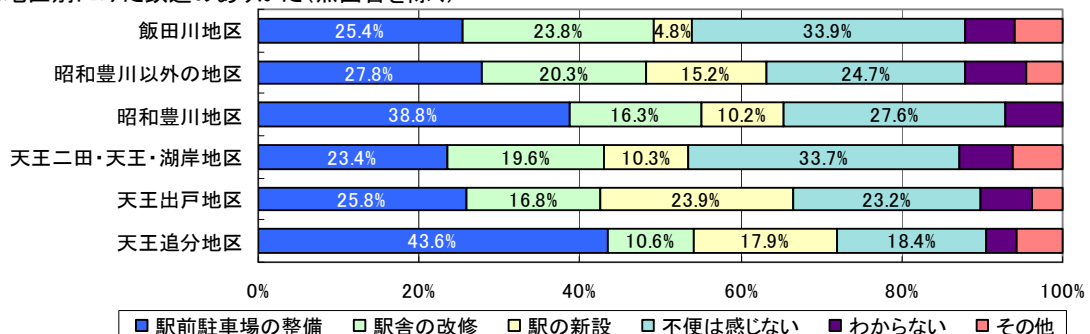
- 職業別にみると、「駅前駐車場整備」は特に会社経営者が高く、全体的に職業を持っている人たちの要望が多いことがわかります。
- 鉄道利用が多い学生は、「駅舎の改修や新築」の要望が高く、無職になると、「不便は感じない」「わからない」が約半数を占め、鉄道をあまりない利用しないことがわかります。

■職業別にみた鉄道のありかた(無回答を除く)



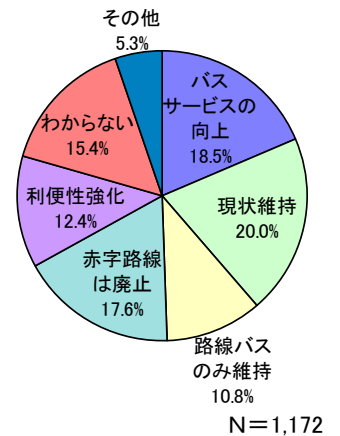
- 地区別では、「駅前駐車場整備」が天王追分地区と昭和豊川地区で要望が多くなりました。
- 「駅の新設」は追分駅と出戸駅間に距離がある天王出戸地区で要望が多くなりました。

■地区別にみた鉄道のありかた(無回答を除く)

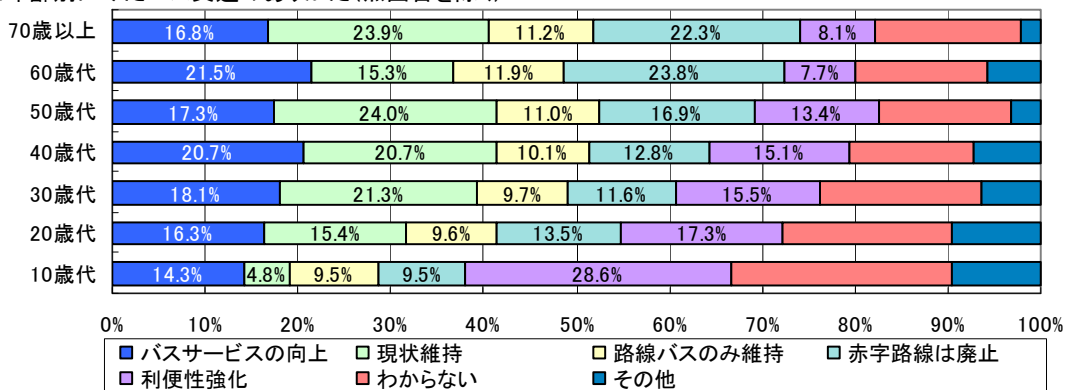


(2)バスのあり方

- ・バスは鉄道よりも利用者が少ないためか「わからない」との回答も15%ありました。
- ・「バスサービスの向上」「バスの利便性強化」「現状維持」などのバス交通に対する肯定的・積極的意見は約5割、「赤字路線の廃止」「運行本数の減少」などの消極的意見は3割弱で、どちらかといえば現状のバスサービスに対して肯定的かつ積極的な意見が多くなりました。
- ・年齢別にみると、「バスサービスの向上」「バスの利便性強化」「現状維持」などのバス交通に対する肯定的・積極的意見は40代など働き盛りの世代が最も多くなりました。対して、バス利用が高いと思われる60代以上の肯定的・積極的意見は少なく、特に「利便性強化」の回答率は低く、「赤字路線の廃止」が他の世代と比較して高くなりました。

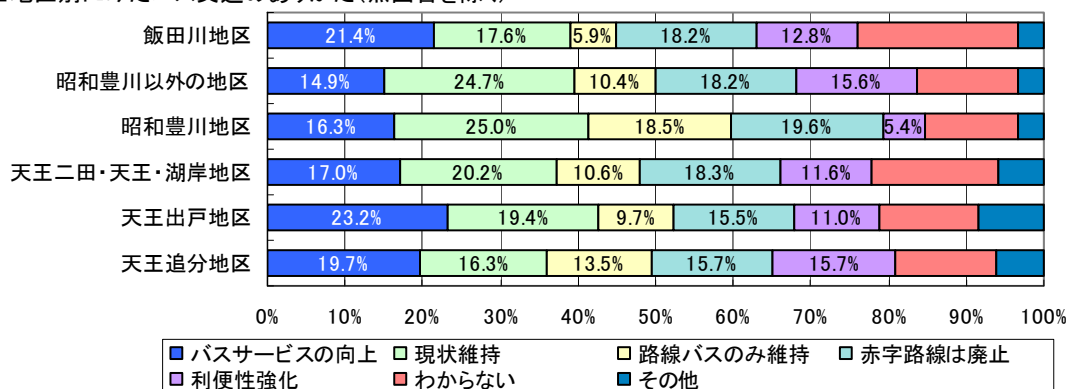


■年齢別にみたバス交通のありかた(無回答を除く)



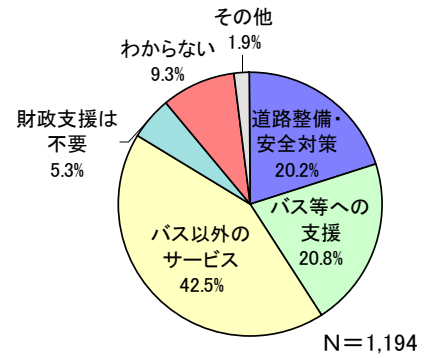
- ・地区別にみると、どの地区においても大差はみられませんが、「バスサービスの向上」は天王出戸地区が最も多く、バス交通に対する肯定的・積極的意見は昭和地区（豊川以外）が高くなりました。

■地区別にみたバス交通のありかた(無回答を除く)



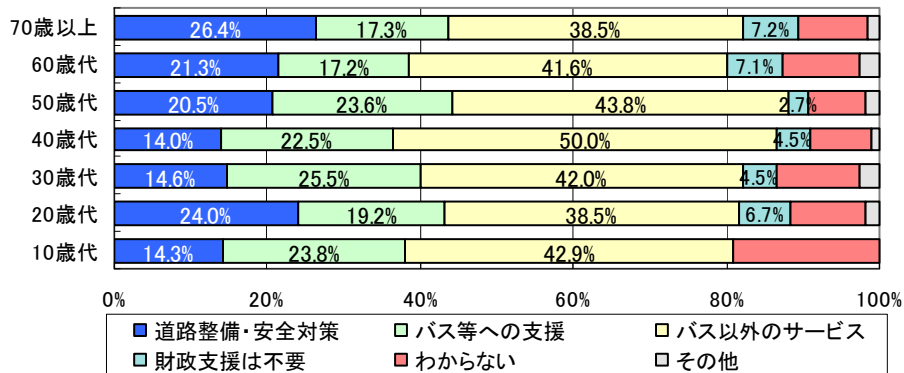
9) 高齢者の交通問題について

- ・ 高齢者の交通のあり方について、最も回答が多かったのは「バス以外の交通サービス」43%で、路線バスに対する財政負担の一部を福祉タクシーのような個別サービス転換することを望む声が多くなりました。
- ・ また、「バス路線の維持」も 21%で、全体的には6割強の住民は高齢者の移動対策としてバスやその他の公共的な移動サービスに対して肯定的な考え方を持っていることがわかります。



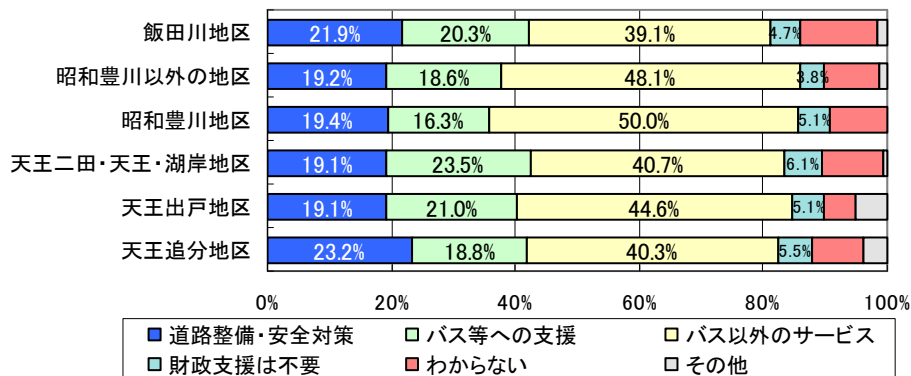
- ・ 年齢別にみると、70代で「高齢者の運転に配慮した道路整備」が他と比較して高く、高齢ドライバーが増加していることによるものと考えられます。

■年齢別にみた高齢者の交通問題(無回答を除く)



- ・ 地区別にみると、地区間で回答率に大きな差は認められませんでした。

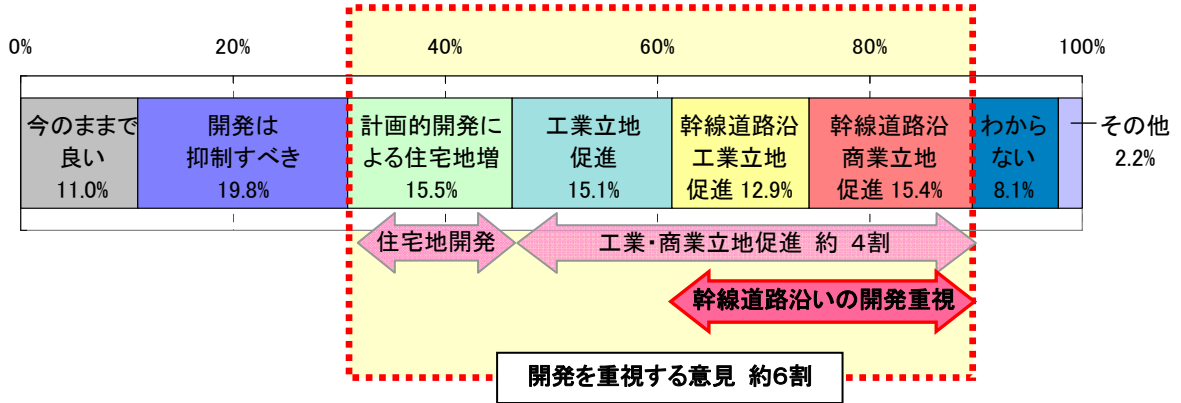
■地区別にみた高齢者の交通問題(無回答を除く)



■地区別にみた高齢者の交通問題(無回答を除く)

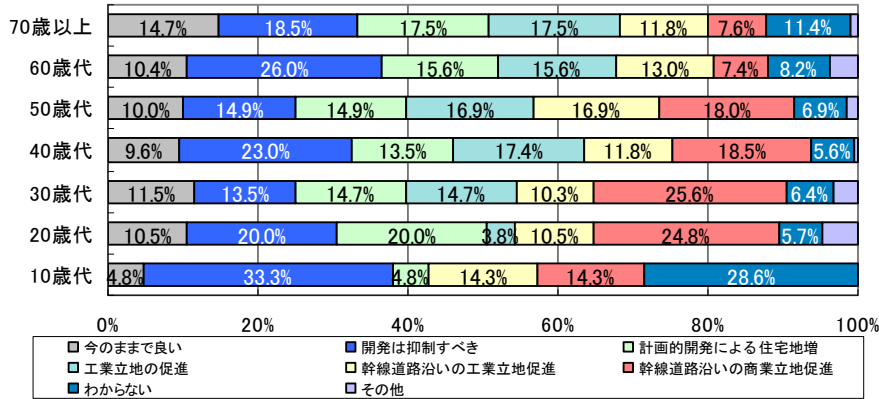
10) 潟上市の将来の土地利用について

- ・ 将来の土地利用について最も高かったのは「開発を抑制すべき」20%で、次いで「計画的開発による宅地開発」16%、「幹線道路沿線の商業立地促進」15%の順でした。
- ・ 各種産業の立地促進という視点から見ると、「幹線道路沿線の商業立地促進」15%、「幹線道路沿道での工業・流通系の立地促進」13%、「農地や樹林地帯での工業立地促進」15%など産業系の土地利用促進が全体の43%を占め最も多く、中でも幹線道路沿道での土地利用を促進による地域活性化を望んでいることがうかがえます。



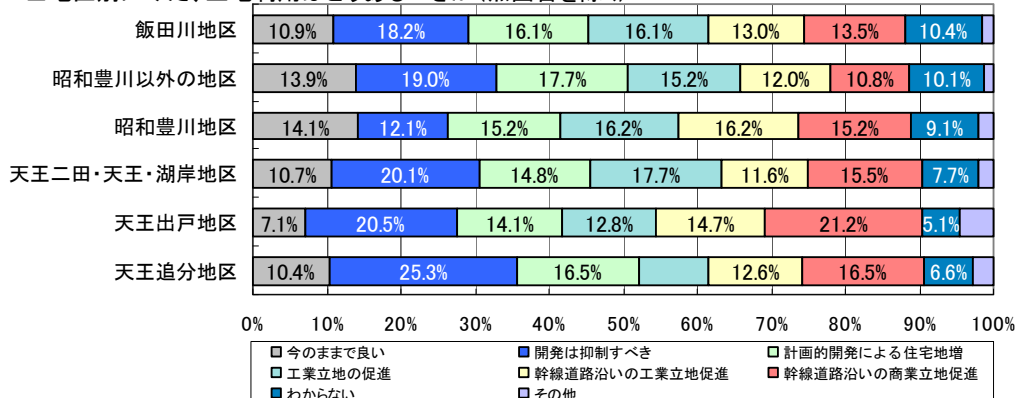
- ・ 年代が若いほど「開発を抑制すべき」との回答率が高くなる傾向を示しています。
- ・ 逆に「幹線道路沿線の商業立地促進」「幹線道路沿道での工業・流通系の立地促進」「農地や樹林地帯での工業立地促進」など、産業系の土地利用促進を指示する回答は50代を中心に最も高く、いわゆる「働き盛りの世代」の回答率が高くなっています。

■年齢別にみた、土地利用はどうあるべきか(無回答を除く)



- ・ 住宅、産業との開発を望む回答率が高かったのは昭和豊川地区と天王出戸地区で、逆に「開発を抑制すべき」「今のままでよい」との回答が多かったのは住宅や工場の立地が多い天王追分地区だった。

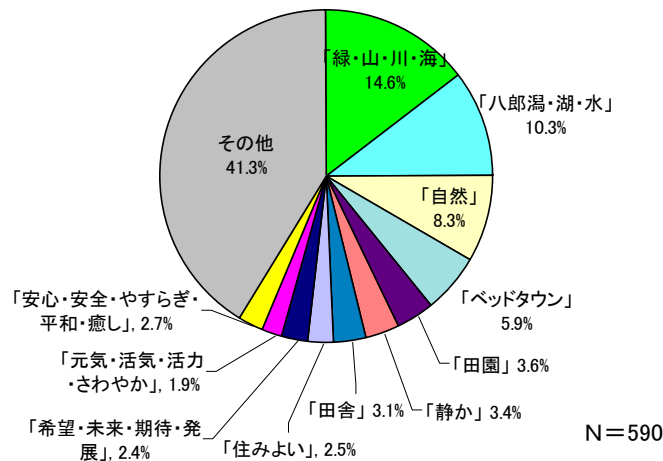
■地区別にみた、土地利用はどうあるべきか(無回答を除く)



11) 潟上市を表す「ことば」「イメージ」

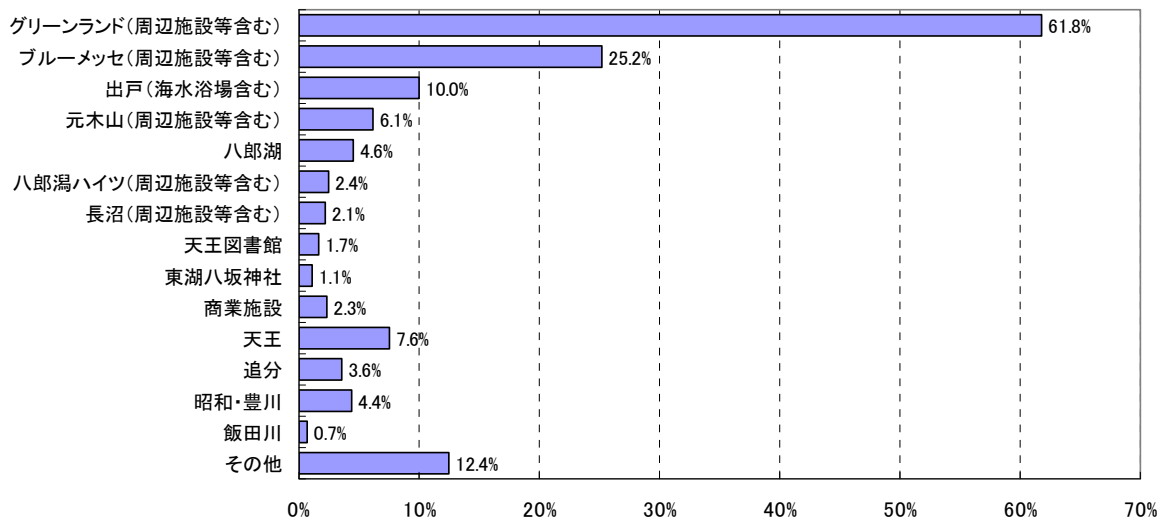
(1) 潟上市を一言で表すと（自由回答）

- ・ 潟上市を一言で表すとどんな言葉やイメージかという問に対して、様々な言葉が寄せられたが、最も多かったのは「緑」をキーワードに、山や川、海という語群で全体の 15%、次いで「八郎潟」「湖」「水」の語群が 10%、「ベッドタウン」の語群が 6%の順だった。
- ・ 「緑・山・川・海」をはじめ自然系の言葉が全体の約 4 割を占めたことから、市民は潟上市のイメージを「緑と水のまち」ととらえていることがわかる。
- ・ また、「ベッドタウン」というイメージも 3 番目に多く、「静か」「住みよい」「安全、安心」等「住まう」をキーワードにした語群も多かったことから、潟上市は居住都市としてのイメージも強いことが伺える。



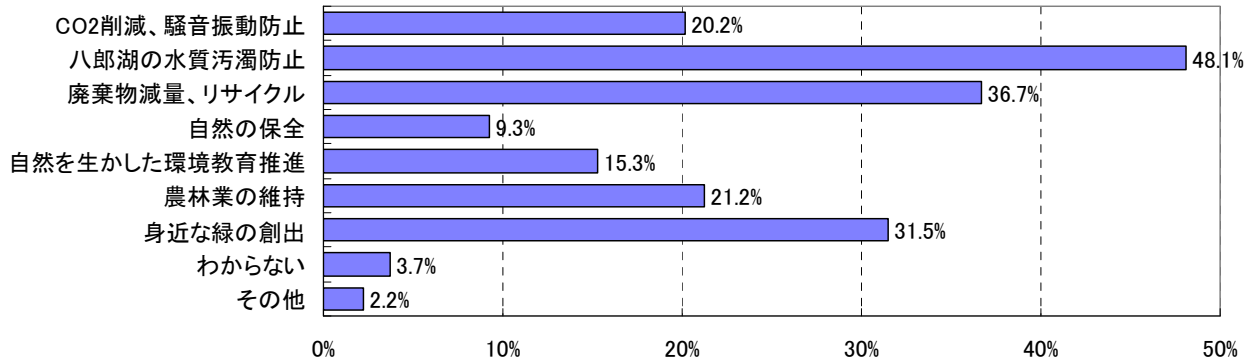
(2) 潟上市のお気に入りの場所について（自由回答）

- ・ 潟上市の「お気に入りの場所は」という問に対して、「グリーンランド」が全体の 6 割以上を占め最も多く、市民の憩いの場所となっていることがわかる。
- ・ 次いでブルーメッセが 25%で、市民の「お気に入りの場所」は「グリーンランド」と「ブルーメッセ」に集約されているともいえる。
- ・ また、「出戸浜」や「元木山」などの回答の他、「天王」や「昭和・豊川」などの地名も上がり、これは、回答者が居住する地域の施設名や地域名を選択したことの要因が大きいと考えられる。



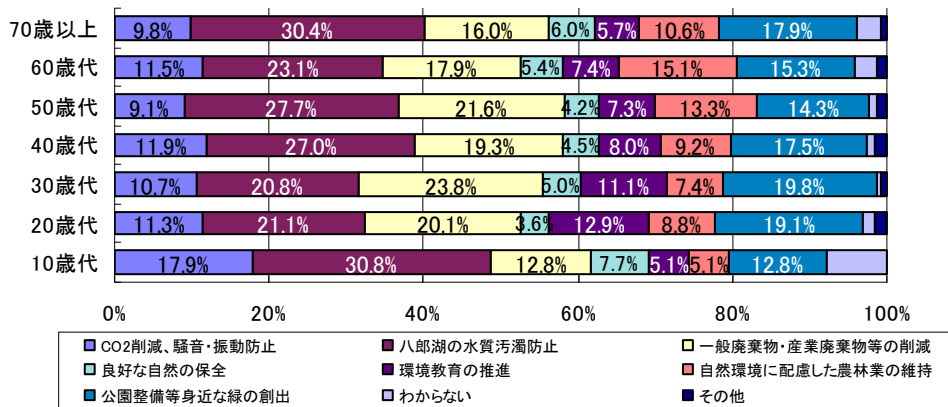
12) 環境について(複数回答)

- ・ 「今後より良い環境を実現するためには、どのようなことが大切だと思いますか？」との間で最も高かったのが「八郎湖の水質汚濁防止」で約半数の回答がでした。
- ・ 次いで「廃棄物の減量、リサイクルの推進」37%、「身近な緑の創出」32%の順で、生活と密着する項目が上位となっています。



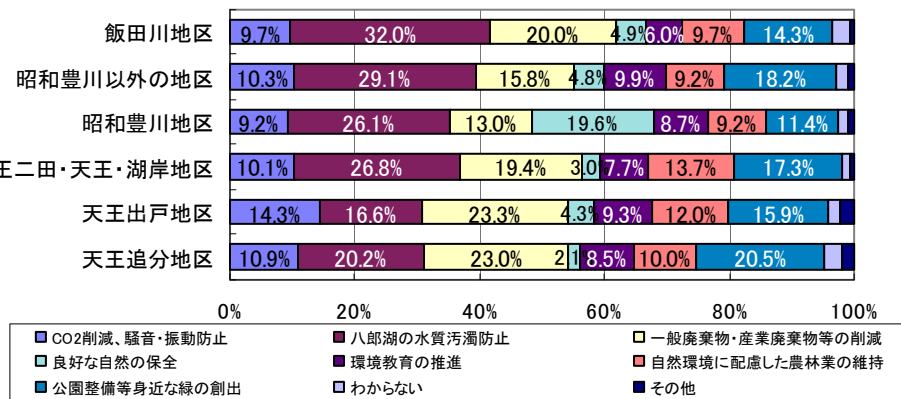
- ・ 年齢別にみても、全年齢で「八郎湖の水質汚濁防止」が高くなっています。

■年齢別にみた環境について(無回答を除く)



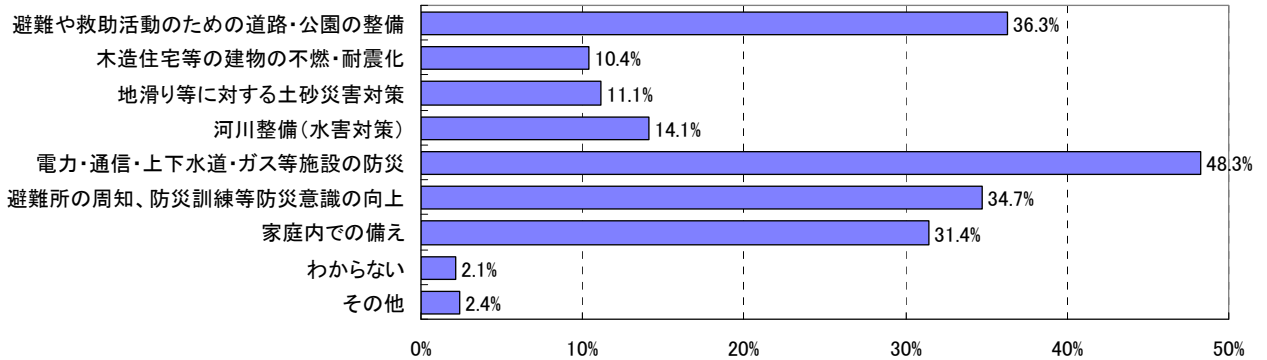
- ・ 地区別にみると「八郎湖の水質汚濁防止」が最も高いのは飯田川地区で、天王追分・出戸地区では「廃棄物の減量、リサイクルの推進」が「八郎湖の水質汚濁防止」を上回っています。
- ・ これは天王追分・出戸地区が他の地区と比べ八郎湖から距離があることと、居住年数が浅い住民が多く、八郎湖と関わり合いが少ないことによるものと考えられます。

■地区別にみた環境について(無回答を除く)



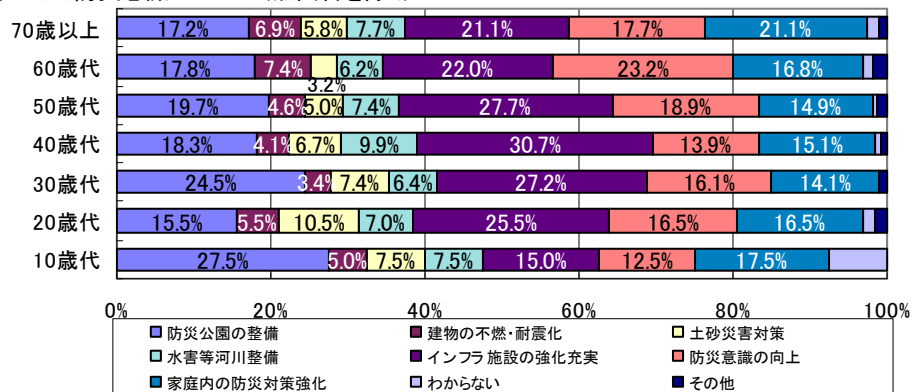
13) 防災意識について(複数回答)

- 「風水害や地震などに対して安全なまちづくりに対して、どのようなことが大切だと思いますか」との問いに、「電力・通信・上下水道・ガス施設等の供給処理施設強化・充実」が約5割を占め最も高く、生活インフラへの防災強化をもとめていることがわかります。
- 次いで「避難・救助活動のための道路・公園整備」36%、「災害時の避難場所の周知、防災意識の向上」35%、「家庭内での災害への備え」31%の順でした。



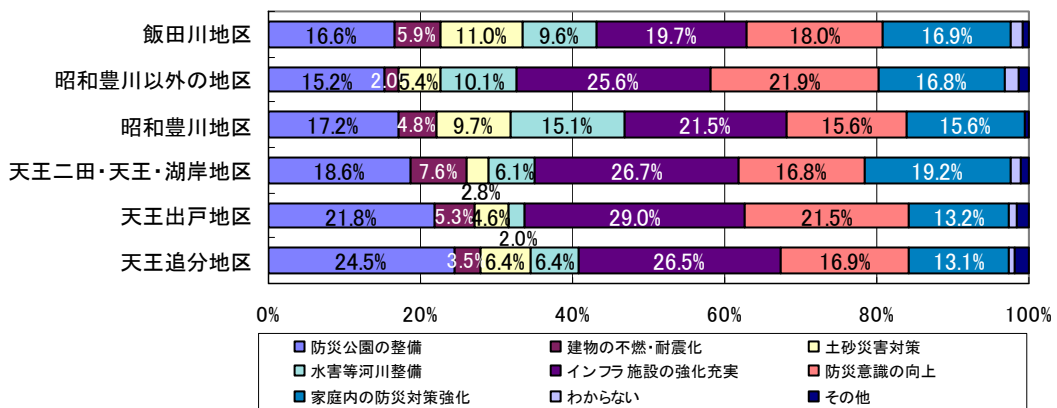
- 年齢別にみると「電力・通信・上下水道・ガス施設等の供給処理施設強化・充実」は10代を除き全世代での回答率が高くなっています。

■年齢別にみた防災意識について(無回答を除く)



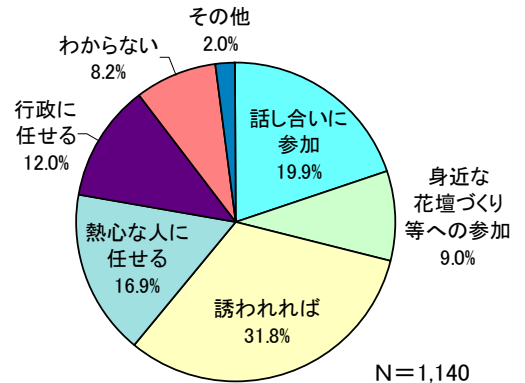
- 地区別にみると、「避難・救助活動のための道路・公園整備」が天王追分地区と天王出戸地区が高くなっています。

■地区別にみた防災意識について(無回答を除く)



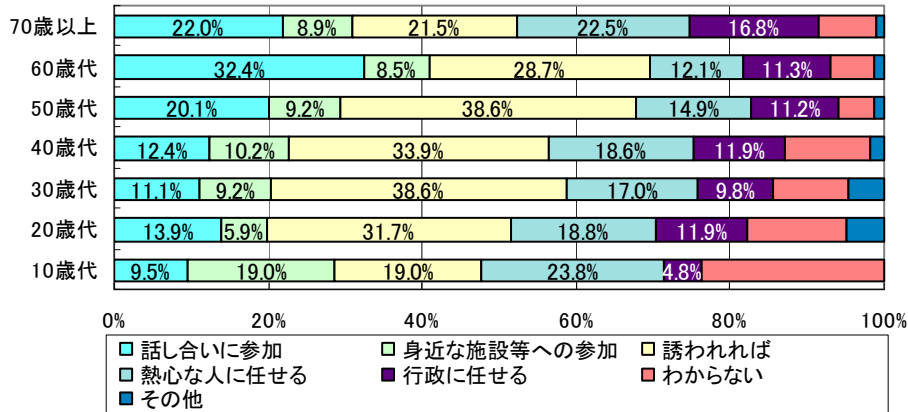
14) まちづくりへの市民参加意識について

- ・ まちづくりの参加意識について一番多かったのが「誘われれば」32%で、次いで「まちづくりの話し合いなどに参加したい」が20%でした。
- ・ 「まちづくりの話し合いなどに参加したい」「身近な花壇づくり・公共施設の里親制度への参加」などまちづくりへ積極的な参加意向は約3割で、やや消極的ながらも「誘われれば」を合わせると、約6割の市民はまちづくりの市民活動への参加協力が期待できる結果となりました。



- ・ 年齢別にみると、「まちづくりの話し合いなどに参加したい」「身近な花壇づくり・公共施設の里親制度への参加」などまちづくりへ積極的な参加意向は60代が4割を超え最も多く、60代は「誘われれば」を含めると約7割がまちづくり活動への参加が期待できることとなります。
- ・ 50代になると、まちづくり活動へ積極的な意向は約3割、40代、30代になると2割台となりますが、20～30代は「誘われれば参加」が3割強の回答を得ていることから、今後、参加を呼びかける方法や手段を考えると、まちづくり活動の活発化が期待できるものと考えられます。

■年齢別にみたまちづくりへの参加意識について(無回答を除く)



- ・ 地域別にみると、飯田川地区の住民がまちづくり活動への積極的な参加意向が最も高いことがわかります。

■地域別にみたまちづくりへの参加意識について(無回答を除く)

